



かけはし

臨時号

令和6年 3月 6日
東久留米市立第三小学校
校長 町田 元彦
学校ホームページ
<http://www.higashikurume-school01.jp/dai3-e/>

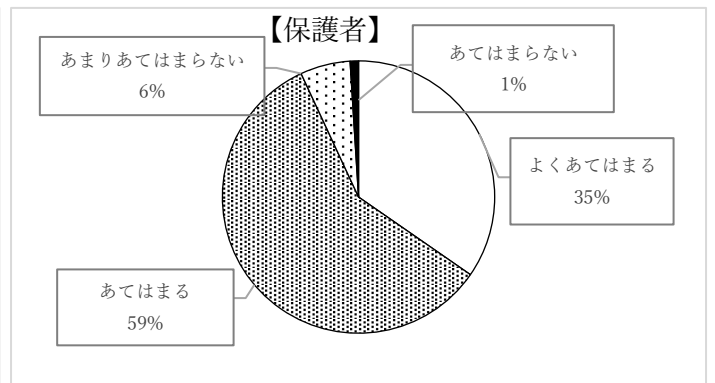
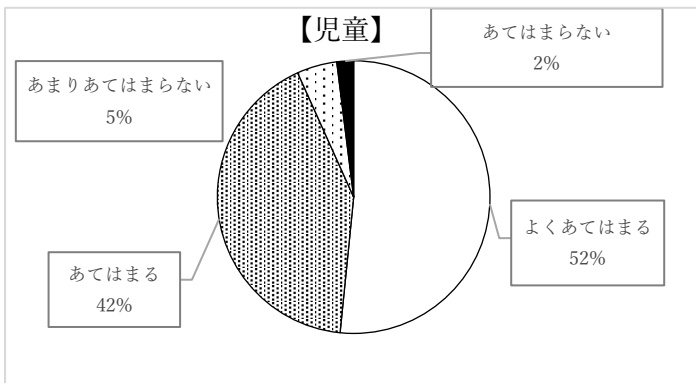
教育目標 ○よく考える子 ○なかよくする子 ○元気のよい子

令和5年度 学校アンケートのまとめ

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。さて、2学期末にご回答いただきました学校アンケートのお礼とご報告をいたします。アンケートの結果やいただいたご意見をもとに、来年度も本校の課題を見極めながら、教育活動の改善を図ってまいります。

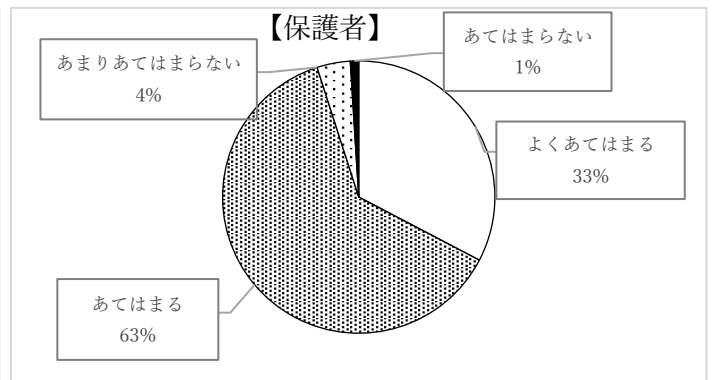
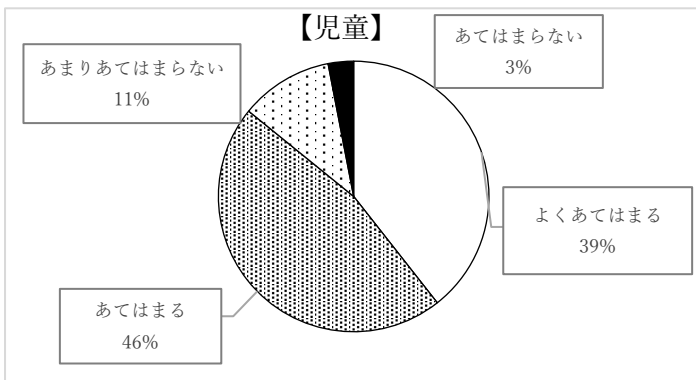
① 児童:友達と仲良くし、人をきずつけないようにしている

保護者:お子さんは、自分や友達を大切にし、偏見や差別を許さない心が育っている



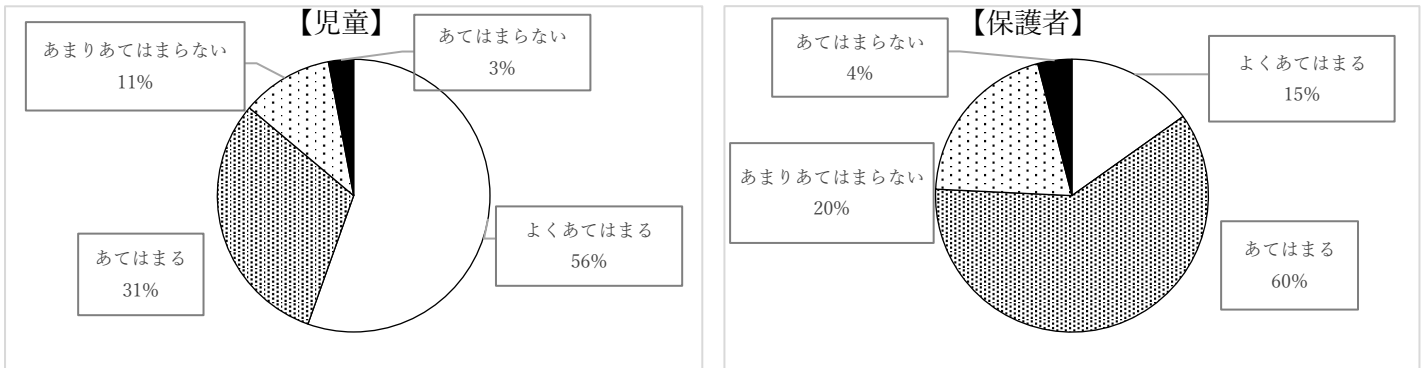
② 児童:友達を呼び捨てにしたり、嫌がることをしたりしないで、命や人の気持ちを大切にしている

保護者:お子さんは、生命を大切にする心や善悪の判断や模範意識など道徳性が育っている



③ 児童:自分はいじめは絶対にしないと思う

保護者:学校は、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めている

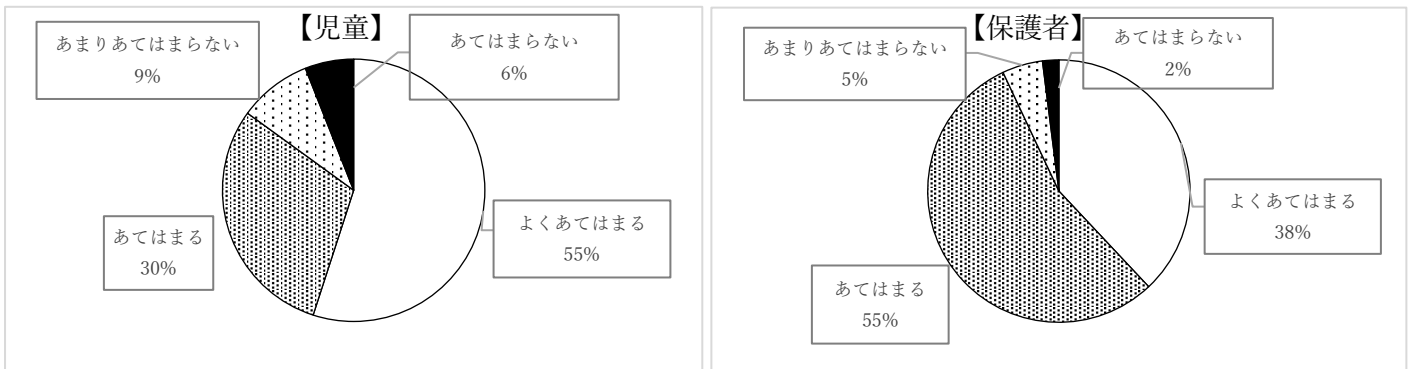


「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の合計が保護者で24%あり、児童においても14%と比較的多い値といえます。今後もいじめ防止の指導を日常的に行い、児童の人権感覚を育むとともに便りやホームページ、まちこみメールでも取組の様子を発信していきます。

また、年3回の「ふれあい月間」を中心に日頃から実態把握に努め、いじめの問題に対する組織的な対応を継続していきます。

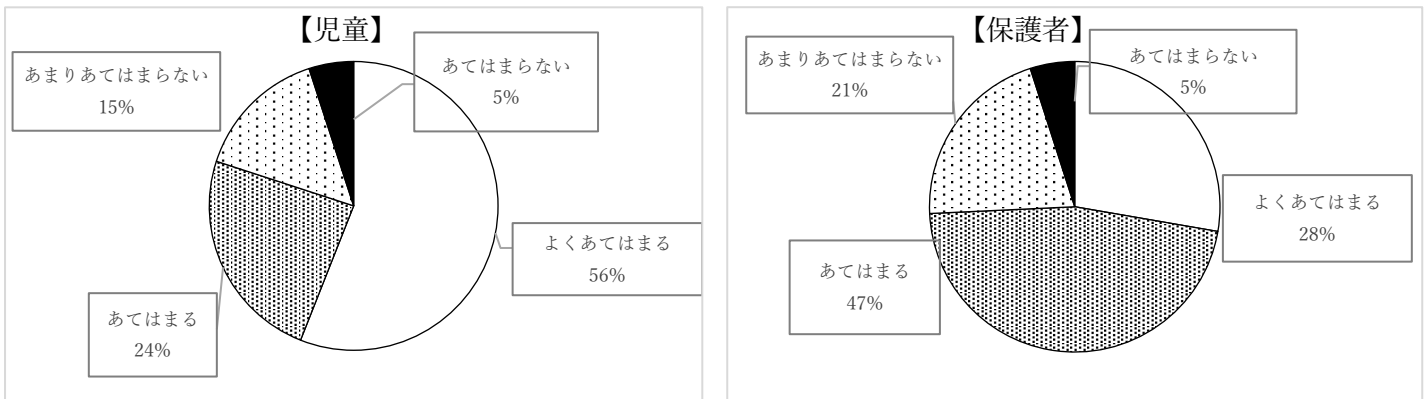
④ 児童:学校には楽しく登校している。

保護者:学校は、お子さんにとって楽しい場所になっている。



⑤ 児童:体育の授業や外遊びにすすんで取り組んでいる

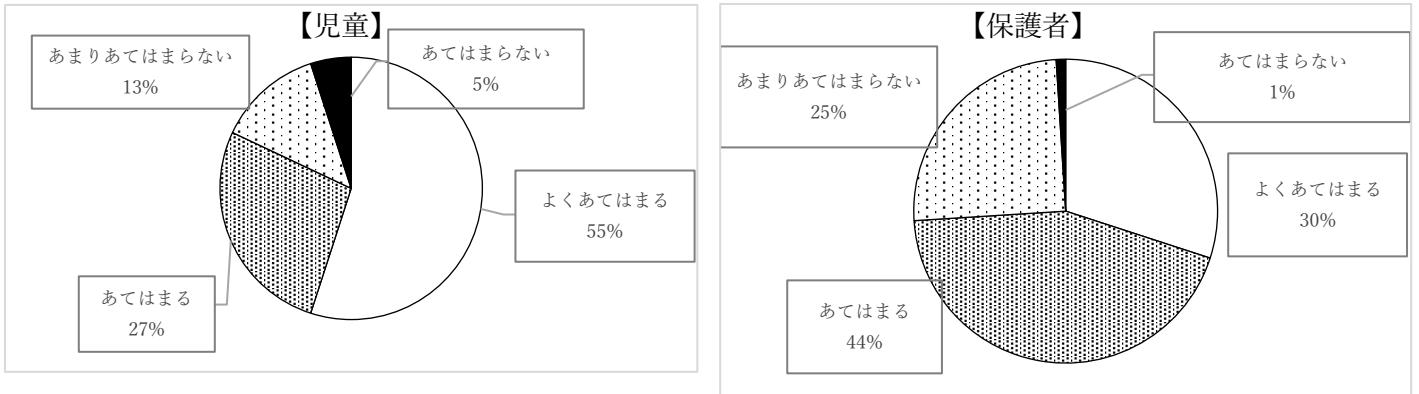
保護者:お子さんは、積極的に体育やスポーツに親しみ、健康増進や体力向上に努めている。



「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の合計が保護者で26%あり、児童においても20%と比較的多い割合で体育に消極的な児童がいます。児童が意欲的に取り組むことが出来るよう体育の授業改善を図るとともに、「わくわくスポーツ」活動をより工夫し、一人一人に応じた体力の向上を目指していきます。

⑥ 児童:好き嫌いをせずに、給食をいつもおいしく全部食べている。

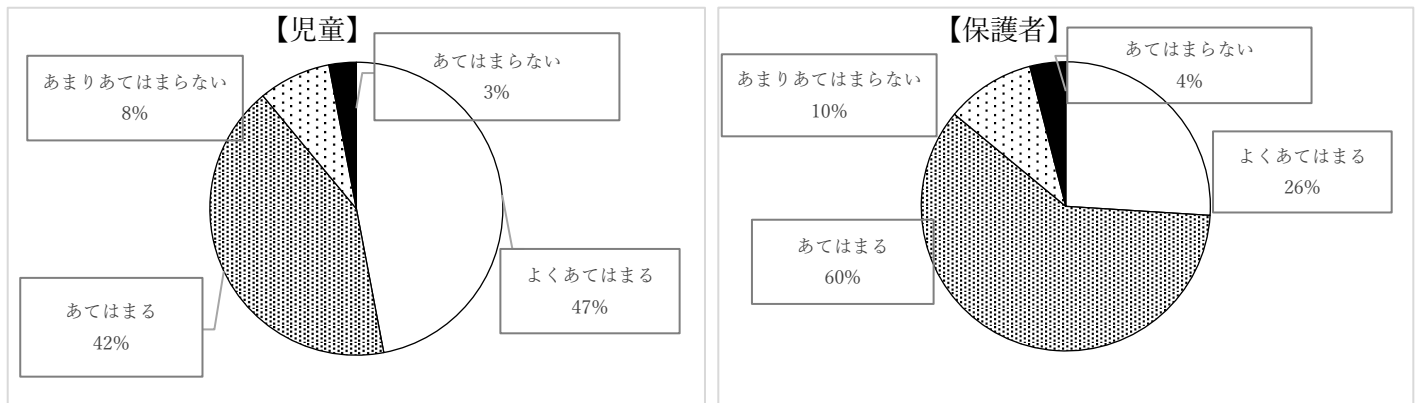
保護者:お子さんは好き嫌いなく食べたり、食べ残しをなくそうとしたりするなど、学校の給食指導を通して食を大切に
する心が育っている。



「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の合計が保護者で26%あり、児童においても18%と比較的
多い割合となっています。残食数などとも比較しながら、食べ物を大切にしていける学級指導を行うとともに、
栄養士を中心とした「食育」指導を充実させていきます。

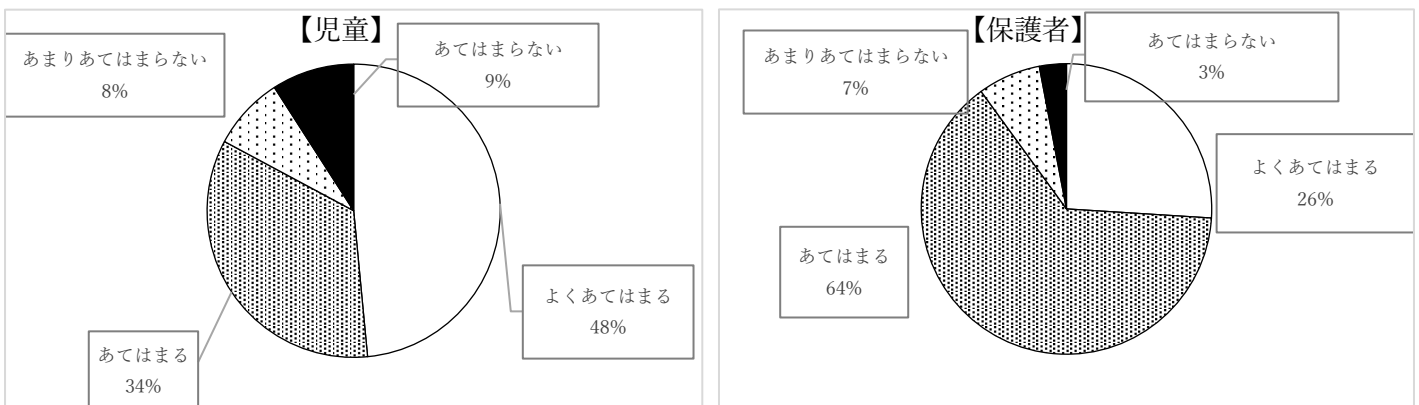
⑦ 児童:授業はよくわかる。

保護者:お子さんは、学年相応の学力が身に付いている。



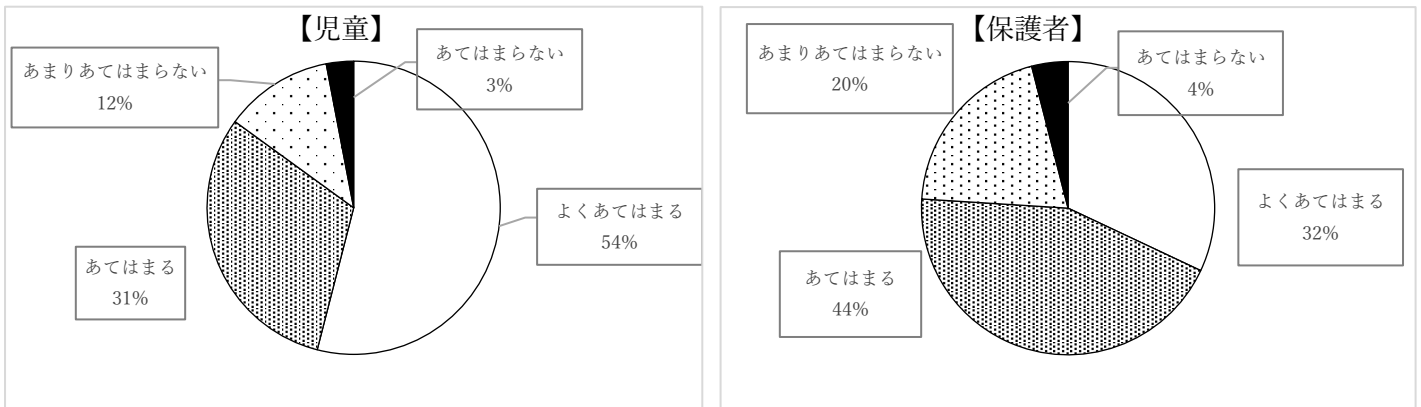
⑧ 児童:算数の少人数学習や寺子屋などの学習は役に立っている。

保護者:算数の習熟度別学習や、TT、寺子屋などの個別指導やグループ指導などは、お子さんの学力向上につなが
っている。



⑨ 児童:宿題など、家庭学習に毎日取り組んでいる。

保護者:お子さんは、家庭学習に毎日取り組んでいる。

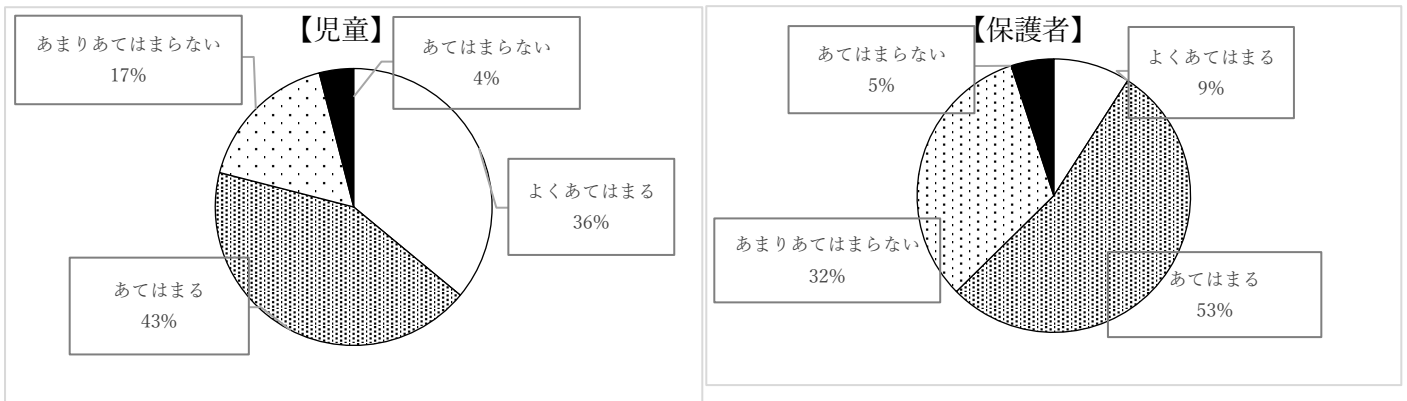


「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の合計が保護者で24%あり、児童においても15%の割合となっています。家庭学習を充実させるために、「東久留米スタンダード（家庭学習編）」を基に全教員が共通理解を図って指導するとともに、「自分でやってみよう。」と思わせ、「やってきてよかった。」と感じさせる課題の工夫をしていきます。

また、各家庭と連携し、一人1台端末を活用した家庭学習の充実を進めていきます。

⑩ 児童:授業では、自分と他の人の考えをくらべたり、わかりやすくまとめたりして伝えることができる

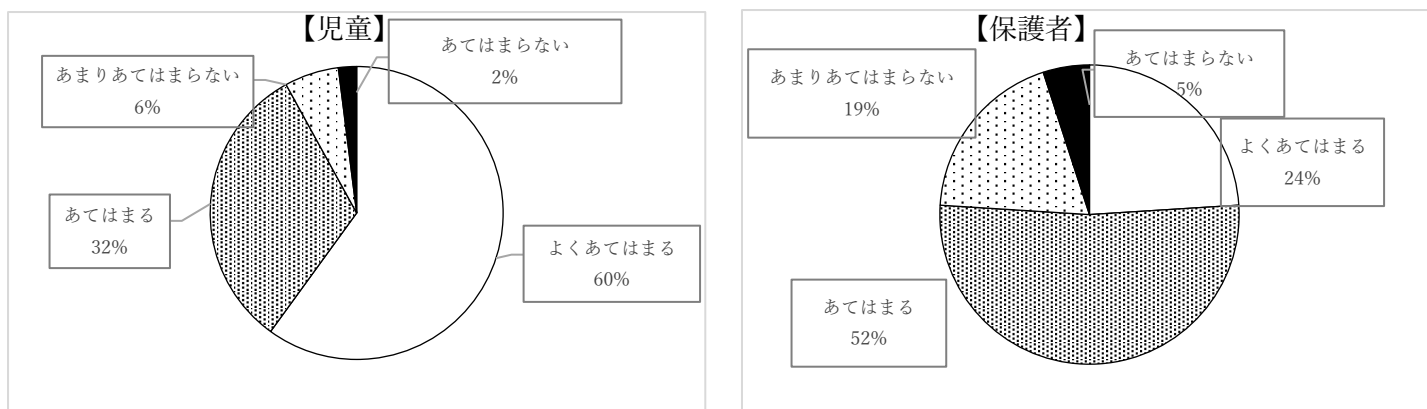
保護者:お子さんは、自分の思いや考えをわかりやすく伝えることができる。



「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の合計が保護者で37%あり、児童においても21%と比較的多い割合となっています。

今後も児童が様々な人との交流により見方や考え方が広げる良さを実感できるよう、授業改善に努めていきます。児童の思考の広がりや深まりを教師が価値付けるとともに、話し合いや協働的な活動の後に、しっかり振り返る時間を設定し、児童が自分の変容に気付けるようにしていきます。

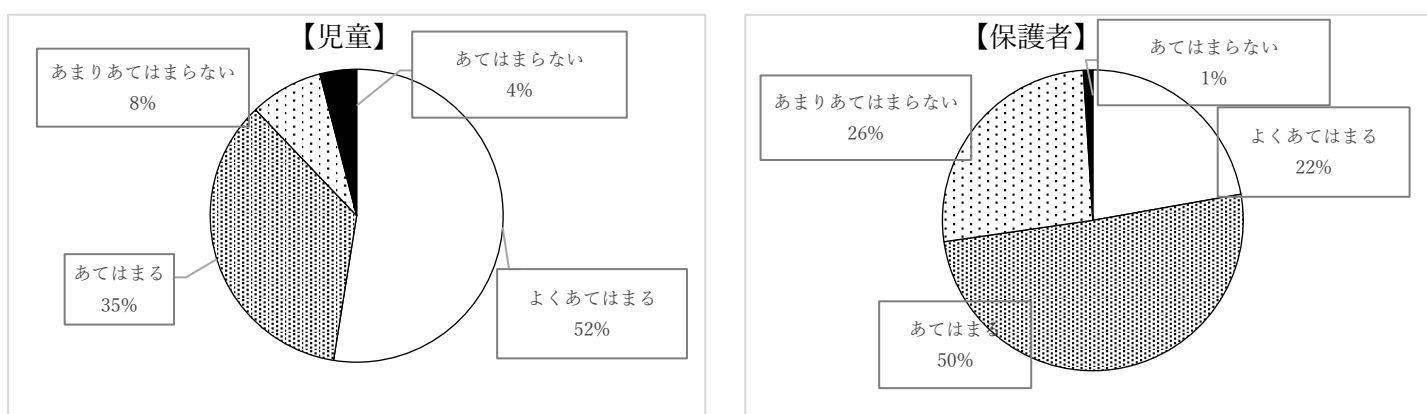
- ⑪ 児童:授業では、タブレット端末を使いながら学習することができている。
保護者:お子さんは、学級や家庭でタブレット端末をすすんで活用している。



「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の合計が保護者で24%あり、児童においては8%と児童・保護者において差異が見られます。研究推進校として積み重ねた一人1台端末の効果的な活用事例を共有し、各教科等においてICT機器を積極的に活用した授業を展開していきます。

また、授業中の取組をホームページなどで積極的に発信するとともに、授業と家庭が学習でつながることができる活用も広げていきます。

- ⑫ 児童:あいさつはいつも元気よく、すすんでしている。
保護者:お子さんは、元気よくあいさつができる。

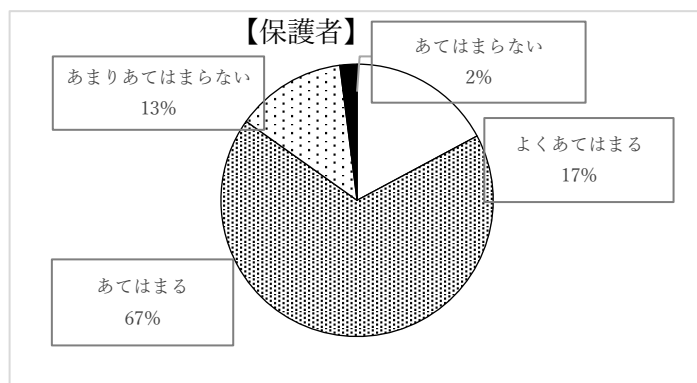
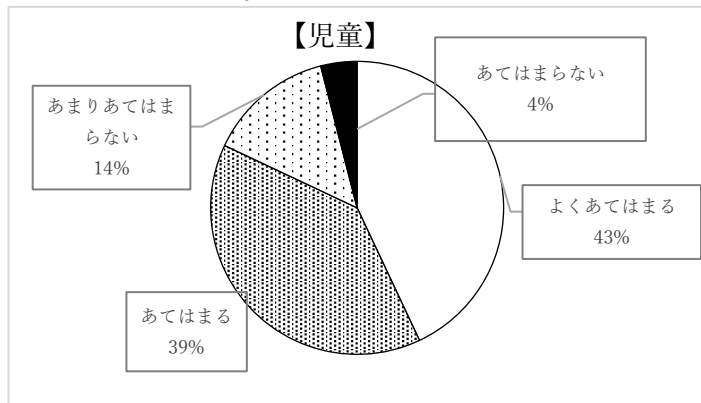


「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の合計が保護者で27%あり、児童においては12%と児童・保護者において差異が見られます。代表委員会が中心になって気持ちのよいあいさつを全校に呼びかけ、あいさつが充実してきていることが感じられます。

今後は、いつでも誰にでもすすんであいさつをすることができるような児童を育成するために、児童の良い姿を認めて伸ばしていきます。そして、保護者や地域の方に対しても積極的にあいさつできるような良いあいさつ習慣を育てていきます。

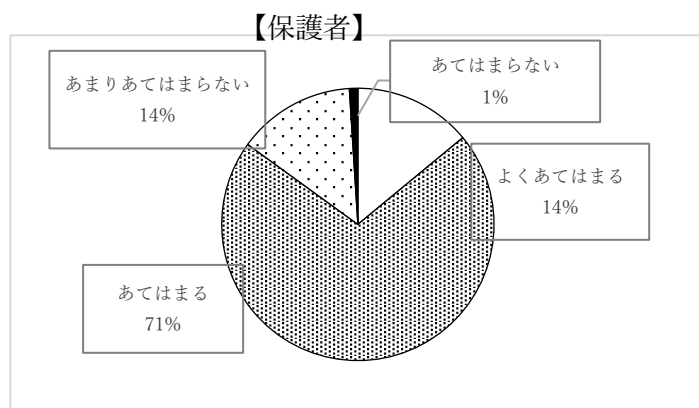
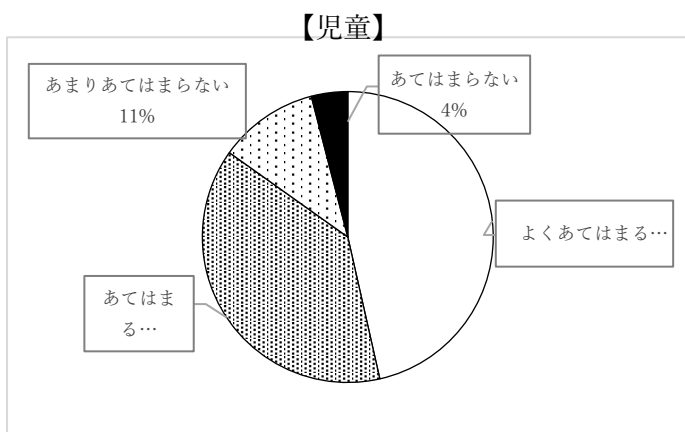
⑬ 児童：地域の人や地域のもの、地域のこととのかかわりを通して学ぶことは楽しい。

保護者：学校は、児童の発達段階に応じて、地域人材の活用や社会・自然・文化に関わる体験活動を積極的に行っている。



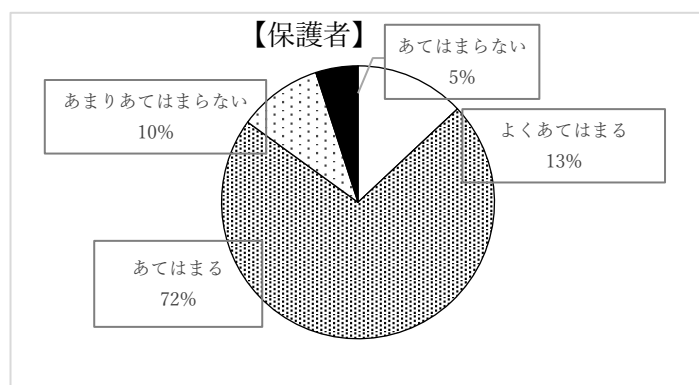
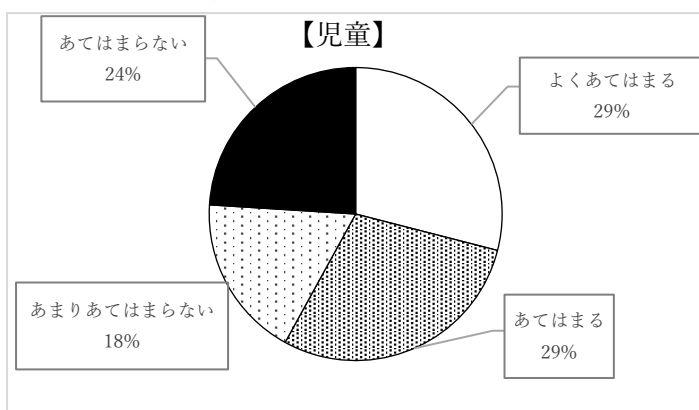
⑭ 児童：なかよし班活動にすすんで取り組み、他の学年やすずかけ学級の人たちと仲良くしている。

保護者：学校は、異学年交流を通して、社会性を育む教育活動を行っている。



⑮ 児童：心配なことは、学校の先生やスクールカウンセラーさんに相談している。

保護者：学校は、担任やスクールカウンセラーなど、お子さんの相談体制を整備している。



「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の合計が保護者で15%あり、児童においては42%と児童・保護者において大きな差異が見られます。年3回の「ふれあい月間」を中心に、日頃から実態把握に努めるとともに、スクールカウンセラーと連携し、相談活動を充実させていきます。また、児童が担任以外の教員にも相談しやすい環境づくりを進めていきます。